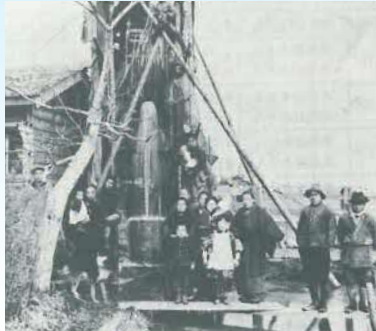


# 水道事業創設70周年



令和2年は苫小牧市で水道事業が始まってから70周年となる節目の年です。「おいしい水」がどのように誕生して現在に至るか、あゆみの一端を紹介します。



かつて苫小牧村では川水や浅井戸を飲料水としていました。大正期に、地下70mと150m辺りに上質な水の層があると判り、掘抜き井戸が急速に発達しました。



昭和25年から、水道の創設工事が始まりました。幌内取水場をはじめ、ポンプ場や配水池を設置。導水管、送水管、配水管の布設工事も次々に進められました。



給水開始は昭和27年。表町、錦町など市の中心部から始まり、続いて錦岡、沼ノ端、勇払の簡易水道が整備され、やがて鉄北地区へ給水区域が広がっていきました。



錦岡、沼ノ端、勇払に整備された「簡易水道」は、水源の深井戸から自噴水を貯水槽に取り、ポンプで加圧送水する方式。昭和40年代の終わりまで活躍しました。



簡易水道の時代は戸別配水を推進しながらも、地区ごとに設置された「共用せん」の利用が一般的。生活用の水汲みは子どもたちの毎日の仕事でした。

年号（西暦）	水道事業のあゆみ（おもなできごと）
<b>昭和</b>	
23年(1948)	市制施行。苫小牧町が市となる(人口33,131人)
24年(1949)	「上水道布設計画」市議会で可決
25年(1950)	4月 水道課新設(事務職2名、技術職8名) 幌内川の水利権取得・創設事業認可及び事業着手
26年(1951)	「苫小牧市水道使用条例」制定
27年(1952)	市内の一部に給水開始
37年(1962)	第1次拡張事業認可及び事業着手・勇払川水利権取得
40年(1965)	第1次拡張施設供用開始・高丘浄水場給水開始
43年(1968)	十勝沖地震による市内全域断水(配水管折損)
49年(1974)	第2次拡張事業認可及び事業着手・錦多峰川水利権取得
52年(1977)	第2次拡張事業による錦多峰浄水場給水開始 明野の配水本管800mm破損事故により36,000戸断水 苫小牧水道工事業協同組合を設立
56年(1981)	高丘・錦多峰配水本管の相互融通体制確立
58年(1983)	『苫小牧市水道30年史』発刊
60年(1985)	厚生省「おいしい水研究会」において、おいしい水道水の都市として全国人口10万人以上の198都市から32都市の1市に選出される(北海道では本市と帯広市)
<b>平成</b>	
7年(1995)	苫小牧市水道部広報紙「水たより」創刊
8年(1996)	錦多峰取水場上流部の産業廃棄物不法投棄による異臭事故発生
9年(1997)	「苫小牧市水道水源の保護に関する指導要綱」施行
11年(1999)	丸山国有林の一部を水源の森として購入(約4.2ha)
12年(2000)	第51回全国水道研究発表会開催 飲食店を中心に「おいしい水のイメージPR」を展開
15年(2003)	ホームページ「とまこまの水道」開設
17年(2005)	配水コントロール施設完成(王子町)
18年(2006)	日の出公園緊急災害対策用水道機材貯蔵庫設置
19年(2007)	水道部と下水道部が統合し上下水道部となる 苫小牧市水道ビジョン策定
25年(2013)	水道事業業務継続計画策定
27年(2015)	上下水道部業務継続計画策定 「とまチョップ水」販売開始 錦多峰浄水場地下水取水場完成
29年(2017)	苫小牧市新水道ビジョン策定
30年(2018)	北海道胆振東部地震(9月6日)による災害対応
31年(2019)	「とまチョップ水」モンドセレクション2019金賞受賞
<b>令和</b>	
2年(2020)	<b>水道事業創設70周年</b>